

現代の香港における葬送事情

死者をどのように弔うのか。弔いの形。弔いの姿。弔いに託す生者の思い——葬送は、人々の生きる姿を映し出す。香港における葬送に投影された香港のいまを生きる人々のありのままの姿に、中華圏に生きる人々の文化（＝生きる形）が浮かびあがってくる。

インタビューー 樋泉克夫（愛知大学現代中国学部教授） 十彭 浩斌（香港第一日語講師）

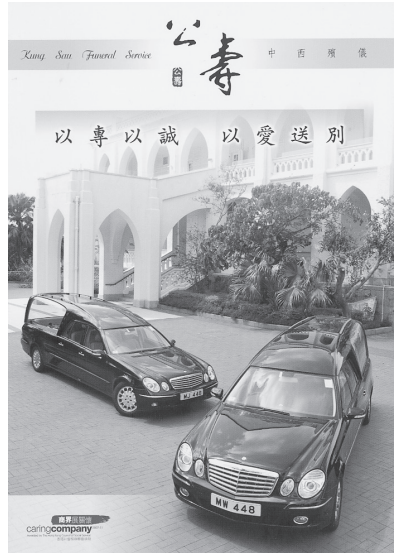
公壽中西殯儀 (Kung Sau Funeral Service)

インタビューに応じてくれたのは、公壽中西殯儀総経理の駱敏儀女士である。経済学を学ぶためにカナダに留学し、香港に戻った後に家業を継いだ彼女は、香港の葬祭ビジネス業界に新感覚を吹き込んでいることでも知られている。その一端は同社社屋のデザインにも現れていた。香港島中央部に位置する中環(Central)

の荷李活道 (Hollywood Road) にある同社の壁面の色は内外ともに白を基調に統一され、道路に面した店舗正面は一面が大きなガラスで、歩行者から店内が見通せる。高級ブランドショップを思わせる明るい雰囲気のお店構えで、そこに棺が並べられていることが不思議に思えるほどだ。一帯には葬儀関連業者が軒を並べて

いるが、大部分がいかにも葬祭業者だと思わせる一種抹香臭く薄暗い佇まいが多だけに、やはり異彩を放っている。

彼女が語ってくれているように、同社の前身は鮮魚、野菜、労働者の組合が相互扶助のために開いた葬儀店で、創業時の名称は「公壽長生壽板店」であった。創業時の広告を見ると、冒頭に「人生最後のために思いを致す」と綴られ、「営業：真正正銘の汀洲、柳洲産材使用の各式棺、出棺に際しての生花、西洋式と中国式の儀仗音楽隊を常備しています。縁



ベンツの霊柩車と白亜の社屋が印象的な
公壽中西殯儀のパンフレット

者のご遺骨・霊柩を海外から運搬と故郷への埋葬を担当致します」とあり、「営業趣旨：心から社会のために服務致します。費用を誤魔化しふっかけるようなことは決して致しません。暴利主義を徹底して打倒します」と続き、末尾に「迅速で適正・丁寧、実質的で安価を保障」と記されている。

ここから公壽長生壽板店が単に棺を販売するだけでなく、葬儀の手配に加え、海外在住者の遺体を収めて棺や遺骨を香港まで運び、さらに中国の故郷に埋葬す

る所謂「運棺」業を営んでいたことも判る。また「営業趣旨」からは、遺族の足元を見透かした阿漕な商売が少なかつた当時の葬儀事情が浮かんでくるようだ。

インタビュ어의なかに、しばしば「(Funeralの映像を示しながら)」の一句を挿入してあるが、これは駱敏儀女史が顧客に営業内容を具体的に説明する際に用いる映像資料である。遺体の引き取りから、化粧、納棺、斎場の設え、埋葬、棺の製造過程、さらには二次葬のための遺骨

の掘り起こしまで葬儀に関する多くの映像が収められていた。貴重な資料であり、葬送文化を理解するうえで大いに参考になると考え、その映像の一部でも使わせてもらえないかとお願いしたが、亡くなられた方の人権、遺族を含めた関係者の個人情報に属することを理由に許可をいただけなかった。なお、「運棺」については9頁に若干の解説を付しておいた。

* * *



四代目の経営者

——まず伺いますが、このお店の創業は、いつ頃のことなんでしょうか。

駱 創業は第二次世界大戦前です。

——あなたで何代目になるんでしょうか。
駱 創業が曾祖父ですから、数えて私で四代目に当たります。

——曾祖父の方は、どのような動機から、この店を創業されたのですか。

駱 この店の創業について正確に申しませんが、創業者は必ずしも曾祖父というわけでもないんです。港九鮮魚業総商会、港九菓業行工商總會、港九同徳伏力総工会の三つの同業者の組合が組合員の葬儀をサービスする形で始めたのがきっかけでして、そういった組合員は基本的には低所得者ですから、みんなで資金を出し合って相互扶助的に葬儀を取り仕切るサービスを始めたわけです。葬儀を行うとする組合員は必要に応じて葬儀サービスを受けられました。

——ところで、その三つの組合ですが、どのような内容の組合でしたか。

駱 「港九」とは香港島の「港」と九龍の「九」を合わせた表現です。狭い意味でいうなら香港島と九龍を指しますが、広くいえば香港全体を表します。

ですから港九鮮魚業総商会とは香港の海産物業者の組合ということです。港九菓業行工商總會は野菜や果物業者の組合で、あなたには判らないかも知れませんが、港九同徳伏力総工会とは社会の底辺に置かれた肉体労働者である苦力の組合なんです。創業当時、非営利団体も宗教団体もなく、貧しい人々は仲間内でカネを持ち寄って葬儀をしていたわけです。

——現在は、その三つの組合とは関係はないんですか。

駱 現在は、もう関係ありません。曾祖父は、その組織の構成員として働いていたんですが、戦争の時代に葬儀サービスの需要がなくなってしまう、そこで祖父がお店の株を全部買い取って、単独で経営するようになったのです。

——では、そのおじいさんの出身はどこですか。

駱 香港か東莞のはずです。じつはこの

葬祭業者の創業世代はほぼ全員が東莞出身者です。香港外からやって来た人々が苦しいことに耐えたんです。我が一族の祖先も同じです。

——出身地を同じくする者が同じ職業を独占する。つまり地縁と業縁の結びつきは香港の葬祭業者の間でも見られるということですね。香港にこういうお店は何軒くらいありますか。

駱 同業者ですか、百社ほどですかねえ。わが社のように「持牌殮葬商」と呼ぶライセンスを持った葬儀社は香港島に七社、九龍に七四社、新界に二〇社で、合わせて百社と少しですね。殯儀館と呼ばれる斎場は、香港島の「香港大酒店」の異名を持つ香港殯儀館、九龍の九龍、世界、万国、福沢、鑽石の各殯儀館、それに新界の宝福殯儀館と、香港全体で七カ所あります。

——御社の従業員は何人ぐらいですか。

駱 従業員ですか。私のところには十数人おります。

——御社では葬儀用品の販売が専門ですか。それとも葬儀全般を取り仕切るの



東華義莊近くの墓地造営業者の看板
「回郷・出國」に注目

東華義莊内の荘房。この中で棺は故郷へ還る日を待つ

すか。

略 我が社では葬儀に関わる全般の仕事
を扱っております。つまり、いわゆる
Funeral Planner (葬儀プランナー) という
事業になりますが、殯儀館と違う点は、
我が社は殯儀館のように葬儀を執り行う
斎場を持つてはいないということです。

我が社ではご遺族様の要望に合わせて
葬儀のプランを立て、自前のスタッフや
車を用意して対応するだけでなく、葬儀
を執り行うご遺族の方に棺や葬儀に必要
な品々を提供しています。さらに、我が
社のスタッフが指定された殯儀館に赴い
て葬祭を取り仕切ったり、農村地帯では
樽を組み立てて臨時の葬儀場を建てたり
することもあります。

運棺、つまり遺体の海外への輸送やら
海外からの受け入れも行います。遺体、
遺骸、遺骨に関わる一切の仕事に関わっ
ています。

—— 御社では、葬儀のどの時点から関与
することになりますか。

略 現在は必ずしも人が亡くなってから
ではなく、多くの場合はご家族が危篤の

ときや重病に罹ったと判明した時点で連
絡をいただき、お問い合せに応じてお
ります。もちろん、近親者がお亡くなり
になった後に連絡をいただき、葬儀の流
れについての問い合わせに対してご説明
することもあります。死亡届、火葬許可
証、火葬場の炉の予約、土葬用地の確保
に係る書類申請など様々な段取りがあり
ます。

—— 加えてご遺族に何が必要か。こういっ
た点を踏まえたうえで、人が亡くなった
時点から当社の方で具体的に葬儀全般に
関与致します。葬儀の手順、遺族への案
内、土葬や火葬、その他の埋葬方法の段
取り、それからアフターサービスなど。
例えば、遺骨を置く場所、知っておくべ
きタブー、葬式後の法要など、あらゆる
ことのサポートをします。

—— 月に平均何件くらいの葬儀がありま
すか。

略 同業仲間では多い方だと思いま
す。一〇二件前後です。

—— 葬儀一回の平均必要額はいかほどで
しょうか。

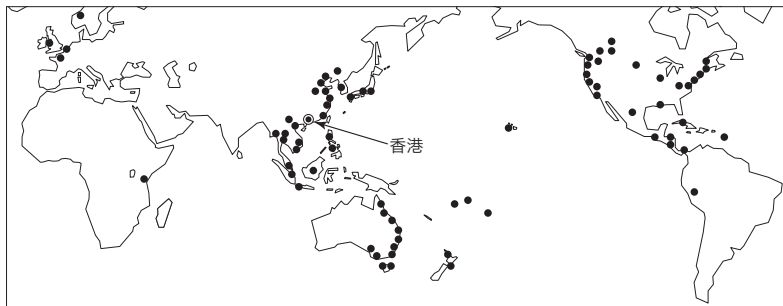


図1 運棺ネットワーク——積み出し港から香港へ

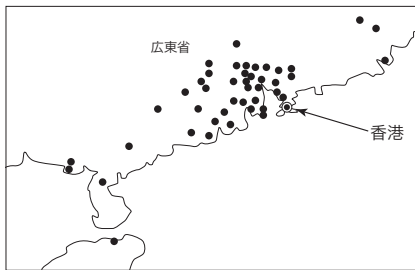


図2 運棺ネットワーク
——香港から故郷の埋葬地へ

出所：図1・2ともに葉漢明編著『[東華三院檔案資料彙編系列之三] 東華義莊與寰球慈善網絡——檔案文獻資料的印證與啓示』三聯書店(香港)有限公司、2009年

運棺とは、「入土為安」(故郷の土に還る)との願いを実現させるために旧中国以来行われてきた風習。異郷で亡くなった者の遺体を棺に納め故郷に運んで埋葬すること。移送の便や経費、さらに衛生問題などから遺骨の状態にして運ぶこともあったが、遺体のまま運んだ例も報告されている。運棺専門業者もみられた。広東から香港を経由して多くの華僑が海外に進出した19世紀半ば以降、海外各地からの運棺も行われるようになった。

広東からアメリカ西海岸に移住した祖父以来の一族の事跡を追ったドキュメントの『チャイナタウンの女』(デニス・チョン著、山田耕介訳、文春文庫、1998年)に、「遺骨でなら墓から掘り出して洗浄され、箱につめられて祖国への最後の旅に出ることになる。だが、通常七年ごとの遺骨積み出しに経費を負担していた華人社会でさえ大恐慌の間に積み出しを中止した」とあるのが、通常は海外各地の同郷会館などのネットワークを経由して香港に運ばれ、香港最大の中華系慈善団体である東華三院(前身は1851年創立の広福義祠)が経営する東華義莊を経由してそれぞれの故郷に運ばれ埋葬された。運棺ネットワークについては上図を参照のこと。

「大恐慌の間に」とあるように、国際情勢や日中戦争、国共内戦、文化大革命などの中国国内事情により、香港から故郷への移送が不可能になったことで、東華義莊に置き留められるようになった。それゆえ東華義莊は「死者ホテル」の異名を持つ。1960年には棺(670基)、遺骨(8086柱)、遺灰(116柱)の総計で1万近い死者が故郷への道を絶たれたまま東華義莊に置かれた。その後、香港の墓地に埋葬されるなど整理が進んでいる。

略 平均額を示すことは難しいですね。それというのも、死亡してから埋葬まで千差万別ですから。簡単に説明しますと、例えば病院で簡単な告別式をして、そのまま火葬場に直行し茶毘にふす場合は、一万香港ドルぐらい必要です。もちろん宗教の違いにもよりますが。

殯儀館で葬式を行う場合は、宗教によって様々です。キリスト教の場合は、基本的には花と遺影の写真のみですし、供え物もありませんし、読経の儀式もありません。そこで依頼主の希望によって必要金額は上下します。殯儀館で葬式を行う場合は数万ドルがかかります。

——これまで扱ったなかで、最も高額だった葬儀をお教え願えますか。

略 ちよつと言ひ難いのですが、基本的には土葬が比較的に高いと思います。まあ百万ドル以上になりますね。一般の方々からすれば、天文学的数字といえますが、現在の香港では五、六百万ドル。時に一千万ドルという例も見られますよ。費用の多い少ないは、依頼主が望む葬儀の規模や様式によって決まります。

例えば、花の装飾一つで軽く二、三〇万ドルかかってしまいますから。

葬式は細々したしきたりが実に多く、同じ斎場であっても、特別な設え、つまり装飾によって全く違う斎場に変貌させることができるのです。(H.P.H.の映像を示しながら)これは殯儀館にある極く一般的な斎場ですが、特別な仕立てを加えますと、全く別の斎場に模様替えできます。こういった場合は、二〇万ドル以上が必要です。葬儀を扱う業者や道教、仏教、天主教(カトリック)、基督教(プロテスタント)、猶太教(ユダヤ教)、回教(イスラム教)、印度教(ヒンズー教)などの宗教形式の違いによっても経費は違いますし、葬儀の規模、使用する花の種類やグレードによっても、様々です。

——式場費用の平均額は。

略 それもご遺族の意向によります。一般的な家庭なら大体五、六〇人が入れる斎場を希望されます。キリスト教形式なら二万ドルぐらいかかります。道教形式で「打齋」(主として客家系の葬送儀礼)が必要な場合は四万ドルぐらいで

しょうか。例えば同じ打齋であっても、適当に神を拜むだけで済ますお客さんもおられます。葬儀を派手に盛大に執り行いたい場合は、やはり二〇人を超える道士が必要です。費用と宗教へのこだわりは千差万別で、人それぞれです。とはいっても、一般的には六人の道士の読経だけで十分でしょう。



棺の値段は千差万別

——棺が一番安いものから一番高いものまで、価格ほどのくらいですか。

略 じつは我が社では以前は棺のみを商っていました。二、三〇年まえから葬儀全般を扱うようになりました。中国人は儒家思想の影響を強く受けていますから、厚く葬ることに意を注ぐわけです。それが「孝」だからです。これが「陰安陽楽」、つまり祖先があの世で安楽に過ごしていることが、この世を生きる子孫を庇護することになるわけです。だから棺を購入することを「買財」とも「買寿」ともいいます。水上で生活す



漆塗りに金彩を施した豪華な棺

る蛋民は「買艇」といいますが、彼らにとって船は生涯を共にする家ですから、「艇」とは家を意味します。

一番安いのは四、五千ドルの火葬用のものです。価格は火葬用か土葬用か、それから中国式か西洋式かによっても違いがでています。香港で一般的に使われている西洋式棺の場合は、数千ドルから一、二万ドルになります。材質は火葬用の合板ですが、外国から輸入した木製の棺ですと、やはり十万ドル前後にまで跳ね上がります。

中国式の棺の場合、一般的に一、二万ドルからですが、サイズ、木の種類、木の希少性によって価格は著しく異なります。本当に希少価値の高い材質を使う場合は、棺として製品化したものを店頭で陳列するのではなく、材木のまま置いておき、お客さんを選んでいただいた後に職人に特注します。この場合は、百万ドルから数百万ドルまで際限がありません。(iPadに収められた棺のサンプル画像を例示しながら)これは数千ドルのものですが、香港で一般に使用されるもの

は、このようにカバーがあつて、開けると窓があり、少しは装飾の施してあるベニヤ合板の棺は一万ドル程度です。どうせ火葬にしてしまうわけですから……。お客さんの中には桜のような硬い材質の棺をお求めの方もいらっしゃいます。この場合は十数万ドルとなりますが、これもまた火葬にしてしまうわけです。ですから一概にいくらいくらと価格をいうことはできません。

やはりご遺族の好み、ご意向に大きく関わってくるわけです。細部の宗教的な装飾に凝る場合もありますし。こちらは段ボール製の棺ですが、一見すると、普通の木製と見分けがつかないように設えてあります。一般に紙製はエコだと思われがちですが、決して安価ではなく、中価格帯に位置し、一万ドル前後です。

最近では葬祭事情にも変化が見られるようになってきました。葬儀に多大な費用を使いますが、それは他人様に見せるという要素が大きい。そこで棺を購入する際にも、棺の等級をあまり気にしないようになり、葬儀・出棺の日時も、多くはご

遺族や親戚縁者の都合で選ばれるようになりまして。最近では、我々業者は誰のために仕事をしているのか。死者を葬ることが第一ではなからうかなどと疑問を持つこともあります。

(Padの棺の画像を示しながら) ことです、これが先ほどお話しした百万ドルを遥かに超える値段の特注棺です。最も材質の優れた材木を貯木場に置いておき、職人に特注しました。木目、材質、木の油の香り……どれも超特級品です。——こう見ますと、材木を削りぬいて船を造るように彫っていくんですね。

略 そうです。(写真を見せながら) 最初はこうですが、どんどん削っていき、一番いい部分、つまり、一番色が濃く、油分が一番多いところまで削り進みます。ほら、結構削ったでしょう。それから全部人間の手で組み立てます。完成イメージはすべて職人の頭の中にあります。すごいでしょう。いい香りがしますよ。いい木はいい香りがする。一般的な材質では、こう細部にわたってまで木目は見えませんよ。おもしろいものは、

いわゆるメタル・カセット (metal casket) といまして、銅に黄金のメッキを施した棺もあります。

——段ボール製は火葬用ですか。

略 はい、火葬用以外はありません。

——「骨灰盅(骨壺)はどうなっていますか。

略 骨灰盅にはいろいろな制限・制約がありますが、サイズは法律でほぼ決められています。原材料は石が一般的ですが、安価なのは大理石、高価なのは玉(翡翠)でできています。玉の原産地はパキスタンから西の中東方面が多いようです。これまた数百ドルから数万ドルまで価格は千差万別です。ミャンマー産出の玉は特に綺麗ですから、やはり値が張ります。繊細な彫刻が施されたり、ギミックの多いものも高価だといえます。その他の国からの木製のものもあります。中には時計式のものもあります。——いったいあなたが依頼に来社するのですか。それから御社を依頼する動機は。

略 いわゆる飛び込みの客はいません。

一貫して紹介制なんです。当社のサービスを満足された方が関係者に紹介してくれます。こういった輪の広がりがありませんから、人から人を介して、当社にご相談に来られるわけです。

創業時の事情から、当初は労働組合関係者が主でしたが、次いで漁業関係者が来られるようになり、いまや我が社は漁民の葬儀のプロになりました。例えば香港でも新界の人、中国北部出身の人、上海出身の人、皆様それぞれに独自の風習があり葬儀の段取りも違います。漁民だけではなく、元々から新界に住んでいらっしゃる方にも独自のものがあります。時折、双方のしきたりが混在することもあります。

これまで当社は多くの漁民の葬儀のお手伝いをさせていただいてきましたが、近年ではキリスト教徒の葬儀も扱うようになりました。両者のしきたりが混じることもあります。キリスト教の慈善団体である聖雅各福群会からの依頼で、独居老人の葬儀も担当致しております。すべて、これまでに当社が扱ったことのある

ご遺族や関係者の紹介ということになります。

——香港はネット社会ですし、インターネットでの申し込みはありませんか。

駱 たまにはありますが、やはり少ないですし、当社としては、そういった一種無機質な関係での仕事は好ましいものと思っはけません。やはり口コミこそが、この仕事を続けるうえでの上のツールだと考えます。

——具体的には、香港のどの地方の方が依頼にいらつしやいますか。

駱 香港島、九龍、それに新界ですが、時には離島からも来られます。

——とはいえ御社の立地上、やはりお客さんは香港島の方が多いんでしょうか。

駱 いいえ、特にそういう偏りはありません。紹介客が多いですから。紅磡には同業者の店が百軒近くあって、あちこちの業者を訊ね歩いては値定めする人が多いのですが、業者の中にはスタッフを病院に派遣して、客を待っている場合もあります。我が社では、そういうセールスや客引きのようなことは一切ありません。

ん。全部が全部、紹介客です。新界の店の場合は確かに新界の客が多いです。紅磡の店は紹介なしで、飛び込みで問い合わせする客も多いようですが、我が社の場合は飛び込みは一切と言っているほどありません。

我が社が上環に店舗を構えるのは、香港に病院が少なかった時代、近くに東華医院という病院があったためです。そこでここ荷里活道には葬儀屋さんが多いんです。私たちは病院で仕事するばかりでなく、亡くなられた方のご自宅で祭壇を組み立てて葬儀を執り行ったこともあります。その当時から営業を続けている我が社のような古い葬儀社は、現在では我が社を含め六社しかありません。まあ葬儀社の老舗というんでしょうか。政府から新規に発行されたライセンスでは葬儀社の店頭で遺骨と棺を置くことが禁止されています。新しいライセンスでも同じように葬儀社の看板を掲げていますが、サービス内容は違ってきています。



黄泉の国への旅支度

——話を先に進ませていただきますが、「寿衣」の使い方、値段を教えてくださいませんか。時代によって変化はありましたか。

駱 一般的に寿衣は下着、上着、帽子、布製の靴、靴下、扇子、ハンカチなどと揃って一式になります。もちろん、亡くなった方の出身地によって形式は異なります。なぜ寿衣があるかというと、寿衣は中国の伝統的な礼服です。男性は六〇



寿衣のセット

歳、女性は六一歳の時、このような服を作ってもらつて、長寿のお祝いの時に着ます。長寿祝いは人生の一大事です。長寿祝いのあと、寿衣はしまつておいて、亡くなつた時また着ることになります。もちろん、カネのない人は寿衣など作れませんから、亡くなつた時でも、それを着て黄泉の国に旅立つわけにはいきませんが。

一般的に、男性は偶数で女性は奇数の枚数を重ね着することになります。習慣的に男性は六枚、女性は七枚を着ます。ただし、地域によつて違いがあります。例えば、こだわりたい人は八枚、一二枚と着ることもあります。中国の北方の人は寿衣の他に綿の服と「袴子」(ズボン)、笠、「申字衾」(外套)など保温性の高い服を着ることになります。地域差は相当にあります。

(i) Pad の映像を示しながら) これが申字衾で、これはコートのように遺体を包みます。包み終わると、まるで漢字の「申」の字のように見えますよね。最近ではマントを着せる例も見られます。昨

今では、子供の結婚式に親はスーツやチャイナドレスを着るでしょう。あれと同じで、中国古来の寿衣に加え西洋式の寿衣も一般化するようになりました。昔の風習はどんどん廃れて行つてしまっています。

——申字衾は男性用ですか、それとも女性用ですか。

駱 男女兼用ですね。

——いつの時点で遺体に寿衣を着せるのでしょうか。

駱 昔は亡くなつてすぐに着せて、その遺体を居間に置きましたが、現在ではそうはしません。家の構造からいっても無理でしょう。現在、一般的な形は遺体を棺に納める前に着せます。病院などから引き取つた遺体を清めて、生きた面影を残すような化粧を施した後に寿衣を着せて、殯儀館の霊安室に安置し、翌日に棺に入れます。

夜間はご遺族がご遺体と対面できるようにガラス窓の部屋に置きます。(ii) Pad の映像を示して) 普通は、このように殯儀館の斎場の奥まつた場所に置きます。

ご遺族は、その場でご遺体と対面することができません。ご遺体を棺に納める納棺の儀式を「大殮」といいますが、大殮の日はご遺体を棺に納め、斎場に移して葬儀を執行します。それがご遺族にとってご遺体との最後の別れとなります。

——「花圈」(花輪) については。

駱 お金持ちでなければ、やはり花圈を用意しません。各種各様ですが、一般的な相場は三百ドルからですが、高いものですと数千ドルのものもあります。

(iii) Pad の映像を示して) 例えばこのようなのは三〜四ドルでできます。

——すべて生花ですか。

駱 そうです。もちろん紙製の花を使う場合もありますが、我が社では生花しか使いません。蕙蘭(シンビジウム属の高級なラン)になりますと、二、三千ドルになるでしょうか。

——「幡」はどうですか。

駱 幡は法事の際に死者の魂を導く道具だと考えられています。亡くなつた方のご息が担ぎ持つことが多いと思いません。

(Pap)の棺の画像を示しながら)これは死者のための幡で、こっちの赤い幡は先祖のもので、幡は打斎の時に使います。なぜ死者の幡と先祖の幡があるかといいますが、それらの魂を幡が斎場に導くからです。そこでお経を聞かせたり、打斎を見せたりします。そこで魂は一度、つまりこの世からあの世への旅立ちを待つこととなります。

魂を斎場に呼び寄せたことで、葬儀が行われている間に、死者のために様々な品物を燃やすこともあります。亡くなった方、先祖、それぞれの位牌が葬儀場に置かれていますから、ご遺族の方は葬儀のついでに故人である祖父、曾祖父などご先祖様があの世で使うカネや他の様々な品物を燃やすことができます。

一般的な慣例では、死者の幡は長男が、先祖の幡は次男、もしくは孫が担ぐこととなります。

——「紙紮」「紙銭」はどうですか。

略 これは paper offering といえます。この世にあって日常的に接する凡ての物を葬儀が終わった後に燃やします。マン

ション、一戸建ての邸宅、金銀の橋、金銀の山、お手伝いさん、「紅大槓」(つづら)、金庫、乗用車、ベッド、扇風機、タンス、クーラー、冷蔵庫、テレビ、コンピュータ、金庫、位牌、駕籠と駕籠かき、冥通銀行発行の紙幣やキャッシュカード、シャツ、スニーカーなど何でもあります。

基本的には紙と竹ひごで作ってあります。時に死者が好きで、好んだ物を特注し、燃やすこともあります。そういえば日系デパートの「そごう」を燃やしたことがあります。特注でレストランの鳳城酒家とか、大きな仏船とかも燃やしました。



紙紮の iPhone ならぬ iPhone

——最近では iPhone やキャッシュカードも見られますよね。

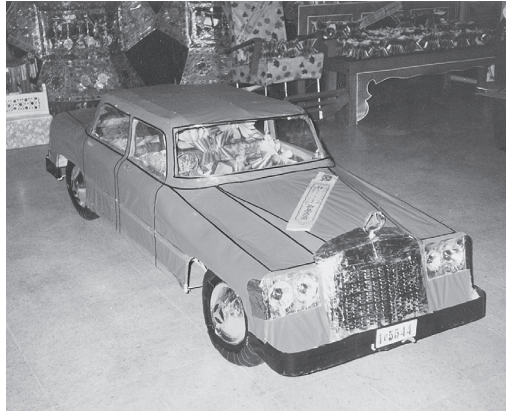
略 あります。冥通銀行発行のキャッシュカードは引き出し額が無制限です。これは冗談ですが……。



冥通銀行発行キャッシュカード

——なぜそういった品物を燃やすんですか。

略 中国人の葬儀に関する考えは、儒教思想に強く影響されています。人は来世があると信じています。遺族は亡くなった人のある世での生活のために準備しておきます。亡くなった人にとって一番いいものをあの世に持たせようと思います。この世ではついでに叶えられなかった満ち足りた生活を、セレブな生活を送った人の場合にはより豪華で贅沢な生活を、あの世でも送ってもらいたいという遺族の強い思いが込められているわけです。加えて、「陰安陽楽」という言葉を信じています。あの世、つまり陰の世界で亡くなった人が心安らかな生活を送っていれば、この世、つまり陽の世界で現に生き



あの世に送られる紙紮の実物大のベンツ

ている遺族も心安らかで物質的にも満ち足りた暮らしができる、という考えです。つまり死者を厚く葬り、多くの品々、もちろん模造品を燃やしてあの世に送り届けることは、死者のためであると同時に生きている残された遺族のためであり、子々孫々のため、いわば子孫の福を祈ることを意味します。

(P.R.)のビルの模造品の画像を示しながら(これはカジノ都市でもあるマカオを象徴するリスボア・ホテルのカジノです。おそらく亡くなった方は生前には賭博が好きだったんでしょう。そこで遺族がカジノ(の模造品)を燃やしてあげて、あの世でも思う存分に賭博を楽しんで下さい、ということでしょう。遺族に金銭能力があったら、様々な特注品を作って、燃やすことができます。例えば、マッサージチェアの模造品などでも。

——そのマッサージチェアの価格は、
駱 千ドルちよつとです。数万ドルを費やした特注品もあります。これは香港ではなく、高い技術をもった、本物そっくりに細部まで再現できる台湾の業者の製

品です。数万ドルの紙の家を燃やすわけです。その意味が判りますよね。あの世とこの世は、やはり深く結びついている。心と心はもちろんですが、あの世に仮託したこの世の現世利益意識というのでしょうか。

——病院で亡くなった場合は、遺体はどこに運びますか。

駱 まず病院の霊安室に置きます。病院の霊安室で簡単な儀式を行う人もいます。これを「院出」といいます。一般に遺体は病院の霊安室に置いた後、殯儀館に運びます。すべての病院に葬式を行うための式場があるわけではないので、高額な料金を払えない遺族は、遺体を収めておく冷蔵庫の隣にカーテンで仕切った場所を設け、葬式を行います。病院の施設は千差万別ですが、より多額の寄金が寄せられる設備の整った病院の中には殯儀館のような式場を備えている場合もあります。

——香港では殯儀館を使う人と使わない人の割合はどのくらいですか。

駱 私の推測では六割の人は殯儀館を使

いません。多くの遺族はあまり裕福ではないからです。教会で葬式を行う場合もあるし、故郷に戻って行う場合もあります。

—— 殯儀館を使う場合の費用は如何ですか。

駱 殯儀館を使う場合は、病院で葬儀を済ませる場合に比べ、一万ドル以上多く必要です。もちろん、葬儀の仕方によって違いはありますが。

—— 香港では殯儀館を使う人は増えているんですか、減っているんですか。最近の傾向を教えてくださいませんか。

駱 変化はあまりありませんね。そういえば、かつては一般的に行われていた「最期の対面」ですが、最近では遠慮したいというご遺族も見受けられます。そういうお申し出の原因を考えますに、長期の闘病生活、あるいは療養生活で容貌が変化してしまい、元気だった頃の顔とあまりにも違ってしまっているからでしょうか。また亡くなられたご本人が生前に「最期の対面は不要」と遺言している場合もあります。こちらは、変り果て

てしまった顔を見せたくない、という思いからでしょう。

現在の香港では、「死」に関するタブーはほとんどなくなっているようです。

自分の「死」を口にしたり、生前から自分の葬式を計画したりすることを、昔の人のように嫌がりませんね。

—— では、ご遺族、ご家族はだんだん遺体を見なくなっているということですか。

駱 そうです。近親も見なくなっていますね。一般的傾向としては、ご遺体の確認を済ませた後は、あまり見たがらないんです。そういう傾向が出てきています。それに自分の葬式について事前に計画しておく人も増えていますよ。葬式は必ずや悲しいものであり、黒と白で構成すべきものという考えは、廃れる傾向が見られるようになりました。例えば、紫色が好きだった人が自分の葬式の花輪は必ず紫色で彩ってくれと指定するとか、中には葬式への参列者に必ずカラフルな服を着ること、泣いてはいけないなどと指示しておく例も見られます。もつと

も、極端な例ですが。

—— 葬儀に殯儀館を使う場合、遺体はいったん病院から御社のような施設に仮安置し、その後で殯儀館に運びますか。

それとも直接、殯儀館に運びますか。

駱 遺体は我が社のような施設に運んではいけません。香港では霊柩車が遺体搬送の唯一の手段で、法律で定められた場所しか遺体を保管できません。当社のような業者の店舗は遺体を保管するところではありません。

—— 遺体搬送には、御社の担当者が当たりますか。

駱 そうです。我が社のスタッフが搬送します。



「院出」「大殮」、そして「買水」

—— 殯儀館に行った後に納棺しますか。それとも病院であらかじめ納棺してから搬送しますか。

駱 殯儀館に行ってから遺体を納棺します。「院出」の場合は病院で遺体を納めず、「大殮（納棺）」という儀式を行います。ですが、その際に遺体を棺に納めず。

——遺体を清める作業に遺族は関わりま
すか。それとも御社の担当者が執り行い
ますか。

駱 日本と同じだと思えますよ。昔は遺
族が関係しましたが、今は見られませ
ん。実務的な部分は当社の担当が行いま
す。一般に「買水」といいますが、顔を
清める儀式があり、ご遺族は水龍王から
水を購入し、ご遺体の顔を綺麗に清め、
亡くなった方をあの世に送り出します。
こういった形式を採らない場合には、法
士あるいは道士が「灑浄」します。これ
も遺体を清めることを意味します。遺体
を清めるのはご遺族ではありません。我
が社の担当です。

昔はそれぞれの家庭で葬儀を行いまし
たから、子供たちは寝床の周囲で親の最
期を見守り、息を引き取ったことを見届
けたら、ご遺体に寿衣を着せ、自分たち
も喪服を着ます。それまでは家族が全部
用意したのですが、今はそんなことはあ
りません。

——遺体を清めるためには水を使いま
すか。

駱 水を使うこともあります。しかし、
遺体処理という問題なら話は別です。水
だけではないかもしれませんが。

——アルコールは使いますか、日本では
アルコールを使いますが。

駱 アルコールもその一つです。香港で
は遺体を受け取るのに二週間もかかるこ
とがあります。遺体を保管する施設は冷
凍庫ではなく、冷蔵庫ですから、ご遺体
の肌にいるいろいろな物が付着したり、皮膚
が剥がれたり、カビが生えたりするかも
しれません。遺体の状態を見てから、ど
んな処置が必要かを判断します。これは
葬儀というセレモニーとは全く別で、環
境や衛生の問題になります。

——儀式には水道水を使いますか。
駱 そうです。しかし、古い習慣の残っ
ている農村や漁村では、例外なく、その
村の井戸水を使います。当社は水道水を
使います。

——水道水に何かを入れますか。香料と
か薬品とか。それともそのまま使いま
すか。

駱 そのまま使います。

——日本ではあの世への長い旅の旅支度
という意味で、遺族が遺体に白い足袋と
草履を履かせますが、そういう習慣は香
港でも見られますか。

駱 ありませんね。昔はあつたんです
が、今は稀にしか見られません。でも、
台湾ではそういうことがあります。遺族
に葬儀の進行に関わらせません。香港では
さっき言った「買水」の他に、ちよつと
おかしい儀式があります。亡くなった人
から物が盗られなくするための儀式など
が多いんです。例えば亡くなった人の服
に息子が線香で穴を空けたり、手形を付
けたりします。それというのも、新しい
服ですから、強奪されないように、あら
かじめ傷をつけておくんです。

遺族が関わる儀式はあるかどうかとい
うと、それはあります。例えば上海出身
者の場合、入棺の時に亡くなった方のお
子さんがご遺体を支えますし、自分で寿
衣を着て温めてから、遺体に着せます。
蛋民と呼ばれる水上生活者などは母親の
髪を梳きます。こんな風に、千差万別で
す。実状をいいますと、現在の香港では

葬儀は、より一層一般化、言い換えますと個性をなくしつつあります。それといいますが、誰もが葬儀の細々した手順、それぞれの所作事の意味が判らなくなっているからです。なぜ、遺体をこんな風に扱わなければならないのか。なぜ、こんな手順で納棺する必要があるのかなどです。だから、昔からこうしてきたからこうする、こうするらしい、ああするものだと、真似をしているだけなんです。

形と心の乖離というのでしょうか。

——火葬には誰が参列しますか。

駱 遺族と親戚と親友と招待された人です。

——火葬にはどれほどの費用がかかりますか。

駱 一二〇〇ドル。子供の場合は六五〇ドルです。

——土葬では。

駱 土葬ですか。香港は土地がせまく、当然、墓地用の場所も少ないわけですから、土葬といっても、一時的な墓地が多いんです。一番安いののは政府の墓地で三一九〇ドル。埋葬期間は七年と定められ

ています。華人永遠墳場管理委員会の墓地は二万一六〇〇ドルで期間は一〇年です。期間延長可能な墓場は二万八〇〇ドルで、期限なしの墓場は二万八〇〇ドルです。以上は一般的なケースですが、極端的な例ですが、キリスト教の永遠墓地の場合は巨額な寄付金が必要です。相場では三百万ドルです。

七年後の「執骨」

——七年の墓地の場合、七年が過ぎた後はどうのように処理しますか。

駱 「執骨」、つまり遺骨を掘り出して拾う必要があります。墓地を掘り返して、専門の業者が墓穴に降りていって骨を拾い集め、それから「骨位」と呼ばれる遺骨を安置する場所に納めます。拾い集めた遺骨を、改めて茶毘に付す場合もあります。

(iPadの画像を示しながら) こんな風に遺骨が液体化した場合、これを「唔化」といいますが、この場合は遺体を掻き寄せ集め、棺に入れ直してから火葬します。これは政府の食物環境衛生署条例

によって定められていることなんです。すべての遺骨を拾えるのが、もちろん一番いいことです。集められたご遺骨を整えて骨壺に納めてお祀りするのか、改めて火葬にするか。それぞれですが、家族の墓地に葬ることもありませぬ。

——骨を掘り出す専門の人を何と呼びますか。

駱 特別な呼び方は特にありませんね。

——ご遺骨を掘り出す作業を、ご遺族は見届けますか。

駱 遺族は必ず現場にいます。その作業を申し込むわけですから。見届けるといいますが、じつはご遺体と埋葬品の確認をするだけで、必ずしも掘り出し作業全体を見守る必要はないわけです。必要なのは立ち会うこと、確認することだけです。

——その場合、黒い傘を差しているご遺族が多いのですが、なぜですか。

駱 客家系の人が住む新界の圍村（自己防衛のために周囲を土楼で囲んだ伝統的集落）では黒い傘を差します。それというのも、ご遺族が差し掛けた傘で陽光が

直に墓石に当たらないように遮るんです。傘で陽光から墓石を守るんですね。しかし、遺骨を掘り出す場合になると傘は使いません。これは客家の人だけの習慣といつていいでしょう。

——納棺するとき、石灰を入れますか、茶葉を入れますか。

駱 石灰や茶葉を入れるのは潮州の人の、それも土葬の場合だけに見られる習慣です。古くからの習慣は生活文化として日々の生活中に記憶されてはいますが、時の経過の中で、なぜそうするか、そうしなければならぬのか、そうすることにどんな意味があるのかが判らなくなっていることが少なくありません。そこで、時間の経過とともに、茶葉でいいのなら同じような物なら他でもいいんじゃないかということ、変化してきたわけです。ですから本来なら茶葉でなければならなかったものが、いつしか忘れられ、そのうちに菊の花でもいいんじゃないか、ということになってしまふんです。

ご承知のように、納棺した遺体の周囲

に茶葉をぎっしりと詰めるんですが、それは遺体から滲み出る体液などの水分を吸収させるためです。一般に普洱茶の葉を使いますが、遺骨を掘り起こした時に骨が非常に黒く変色してしまうため、菊の花に替えたほうがいいと。じつは掘り起こした骨が白ければ白いほど、子孫に幸運と富をもたらすと信じられています。それというのも、白は白銀、お金を意味するからです。

石灰も茶葉と同じように棺の中の水分を吸収する働きを持っています。水分を吸収すると塊になってしまい、結局は水分の吸収には役立ちません。ですから、大方は茶葉を使うことになります。石灰にせよ茶葉にせよ、袋に入つたものを遺体の周囲にぎっしりと押し込みます。その後、遺体の上を紙札・紙銭で覆つた後、棺の蓋をします。

——カネ、カネ、カネですね。ところで、御社では墓地の紹介をしていますか。

駱 ご遺族の要望があつた時には墓地を案内することもあります。ですが、こと墓地ということになりますと、土地の少

ない香港ですから、選択肢は非常に限られてしまいます。公営の墓地なら埋葬に特別の条件や制限はありませんので、当社の者が案内することもできますが、特定の宗教団体の経営する墓地となりますと、誰でもというわけにはいきません。やはり死者が生前にその宗教の信者だったのかどうか問われますし、その点を確認しておく必要があります。

香港で探せなかつた場合、次善の策として中国やマカオの私営墓地ということになります。もちろん私企業が合法的に開発・造成・販売・管理を行つていきます。じつは転売できるような墓地は、香港にはそんなに多くはありません。先月、一二〇万ドルの墓地の購入を仲介しました。深圳の大鵬湾の墓地などは予め購入することができますが、そういうことは香港では不可能です。

——現在でも風水学で適地と認定された墓地の地価が高いんですか。

駱 風水学という適地よりは、周囲の景色の良し悪しですね。やはり周りの景色です。風水学には様々な流派があります



住宅に迫る墓地——東華義莊

ので、これこれという風に特定の条件を備えた土地がいいとはいえませんが、一般には墓地の正面前方に川であれ、湖であれ、海であれ、水に関わるものが控えている土地が高価です。水の反対が工業ビルで、それが墓地の正面前方にあつた場合は値段が極端に安い、ということになります。

——現在では、香港の人はマカオとか中国に埋葬することが多いですか。

駱 さほどに多くはありません。やはり国外へ行かなければならない、香港を後にしなければならぬ、となると火葬しなければなりません。誰もが真っ先に火葬にされることを考えれば、躊躇します。やはり火葬は……です。マカオや中国での埋葬は少ないと思います。

——火葬の日にちは、どうやって決めるんですか。

駱 火葬の日時は基本的には自分で選べます。香港政府の規約に拠りますと、死後一五日以内に火葬できるんですが、やはり死者の数と火葬場の処理能力からいって、希望通りの日にちに火葬できる

というわけではありません。そこで急がれる場合は、離島である長洲島の火葬場を選ぶことを勧めます。といいますのも、そこでは長洲島の住人の遺体しか火葬しませんので、ほぼ毎日空きががあります。とはいっても、離島ですから船を利用しなければなりませんので、敬遠される場合がほとんどです。

やはり離島での火葬は望まれませんから、香港では平均して死後二週間ほど待つこととなります。

——では、土葬の場合は如何ですか。

駱 公営墓地の場合ですと土地を確保してから二四時間以内に、私営の華人永遠墳場管理委員会が管理する墓場ですと土地確保後の四八時間以内に埋葬ということになります。最終的には殯儀館の都合や埋葬に適した日かどうかによって決まりますが、やはり火葬と較べ、極めて短時日内に埋葬しなければなりません。公衆衛生の面から見ても、そういった短時日内の処理は当然でしょうね。

——日本を考えてみますと、一般的に日常生活のなかから死が排除され、死は日

常生活の埒外のことであり、それゆえに一般家庭では葬式をどのように執り行うかという知識が忘れられ、それぞれの段取りの意味づけが判らなくなってきました。香港でも同じような状況にあるのでしょうか。

駱 同じだと思います。でも香港の方が、その速度は速いんじゃないでしょうか。台湾ではまだ多くの儀式を重んじていますが、香港人は先も申し上げましたように、それぞれの段取り、儀式の意味づけが判らなくなってきました。例えば神仏を拜む場合は手を合わせるということとは判っていますが、どのように手を合わせ、その後はどうしたらいいのか。神仏に対し、どのように呼びかけたらいのかが判らなくなってきました。葬儀のことが判っている人でも、じゃあ、自分の子供なり孫に葬儀の段取りを教え伝えているかという、そんなことはないんです。日常生活のなかで、家族内であえて葬儀について話し合っておくなんて機会は持ちようがなさそうです。自分の家族に葬式がなければ、葬儀

について知らないのも当たり前です。でも、それは葬儀だけのことではありません。やはり家族関係や家族構成が変化し、時の流れの中で社会生活の仕組みが違ってくれば、昔は重要と思われた儀礼は忘れられますし、そういったものを守ろうという意識も希薄になることは当然のことではないでしょうか。

以前なら、亡くなられた方の出身地を伺い、それに基づいてご遺族には我が社で葬儀の概要を提案していましたが、今ではご遺族の方が以前にどこかで参列した葬儀方式が気に入ったからと、そういった方式を希望されたり、ご自分たちが好む雰囲気での葬儀を先方から提案されることもあります。静かな葬儀を望まれるのなら、尼僧による読経だけで済ますこともあります。賑やかな方を好まれるなら、道士が「打齋」し、「破地獄」(死者の霊の逸早い輪廻再生を望むための道教喪礼)をしたり、楽器を鳴らしたり、それは賑やかなものです。でも葬儀という儀式そのものを好まないなら、道士も僧侶も尼僧も牧師もお願いせず、葬

儀式場では焼香し、紙札を燃やすだけで済ませてしまいます。それもこれも、すべてご遺族の希望に沿わせるしかありません。

でも、最近では葬儀でも棺でも世間体を気にする傾向も見られますね。例えば出棺の日取りにしても、生きている者や参列者の都合で適当に決められてしまいますが、そんな時、私どもは誰のために葬儀をお手伝いしているのか。亡くなった方を第一に考えなくていいのか。複雑な気分には陥ってしまいますね。



香港の農村、離島における葬儀

——私の子供の頃、いまから半世紀以上も昔ですが、日本の農村では、ある家で死者がでますと回り近所の人々が、なかには子供までが駆り出され、葬式の手伝いをしたものです。坊さんを依頼する人、棺を担ぐ人、墓穴を掘る人、参列者を応接する人、葬儀を手伝う人々のために料理を作る人、子供たちは通夜の晩にドンツクドンツクと団扇太鼓を叩いて近所を廻るなどです。いささか気取った表現

でいいですよ、葬儀は家族のものであると同時に、生活共同体のものだったんです。香港でもそんなことはありませんか。駱 全く同じというわけではありませんが、それに類したことは香港にもありません。例えば坪州のような人情味溢れた田舎では、近所の人々がみんなも手伝います。手弁当での手伝いにしても、後で遺族から謝礼を受け取るにしても、みんな熱心に手伝います。

ですから、香港といつても田舎にはまだそういうことがあります。でも、市街地では隣に住んでいる人に挨拶しても返事がもらえないこともあり、あまり人情味を感じられず、当然のように近所付き合いはなく、生活共同体や相互扶助などという意識はないですね。

——(Pa)の農村における葬儀の画像を見て)この櫓を組み立てるのは、ご葬儀を執り行うご近所の方ですか、それとも御社の担当者ですか。

駱 我が社のスタッフが建てたんです。ここは坪州です。

——(写真の中の葬式を指し)これは道

教形式ですか。

駱 そうです。道教形式です。これは蛋民、つまり水上生活者の葬式です。普通の打齋は執り行わないんです。

——この紙の人形は特別な呼び名がありますか。

駱 はい、これは「真身」といいます。昔、この人形を作る時、亡くなった人生前に使っていた服を人形に着せました。これは紙ではなく、ご本人の服です。この人形はお亡くなりになった方に代わってお経を聞くことになります。現在では本当の服を燃やすことは禁じられていますので、服を人形の上に羽織らせるだけになっています。そんなわけで、ここに老人の服が見えるんです。



霊柩車のナンバープレート「4408」

——御社が香港で最初に霊柩車にベントンを導入したということですが、ベントンの動機を教えてくださいませんか。

駱 以前の棺は土葬用でしたから大きくて重かった。そこで霊柩車はトラックを改造した頑丈なものが用いられていたん

です。ですが最近では火葬が主流ですので、旧来とは違った霊柩車に改良できるんではないでしょうか。やはり人々の考えも変わってきているんです。以前は街で霊柩車を見かけると縁起が悪いと敬遠されたのですが、最近では我が社のベントンの霊柩車を見かけたら、写真を写します。

ベントンの霊柩車の導入には多くの苦労がありました、まずベントンの代理店が霊柩車仕様のベントンを製造してくれない。次に政府の運輸署が車内にどのように棺を固定し、仮に衝突した場合には窓ガラスを割って棺が飛び出すことはないかなどの証明を求めてきました。そこで自動車改造工場に依頼して試験の様子をビデオ撮影し、運輸署に提示して許可を取ったわけです。この間、半年ほどかかりましたが、二〇〇六年五月に、やっと我が社に到着しました。

我が社のベントンの霊柩車は大いに迎えられ、稼働率は着実に高まっています。

——霊柩車のナンバープレートの「4408」には、何か特別な意味が込められて

いますか。

略 それは偶然です。香港のナンバープレート
の番号は抽選で決めるもので、最初の車のナンバーが「448」です。ですから「448」は偶然なんです。発音が広東語のカネ儲けを意味する縁起のいい言葉である「細細発」^{サイサイバツ}に似ているところから、喜んでくれるご遺族の方もいますよ。

——日本では葬祭業者のライセンスを取る時に、法律の試験と実地試験があります。香港ではどうやってライセンスを取るんですか。

略 香港では特に従業員のライセンスはありません。葬儀業者の経営者のライセンスは必要です。例えば経営者は衛生条例の葬儀関連条項を把握していなければなりません。とても古いもので、附則も修正条項も現状には則してはいません。例えば二〇〇三年にSARS騒ぎが発生しましたが、私たちはどのようにSARS菌に対応し、どのように死体を扱ったらいいのか皆目判りませんでした。

そうこうしているうちに、死体処理の

依頼が舞い込んできましたが、私たちは自分なりの態勢でSARS菌の拡大を防ぐしかありませんでした。引き受けた遺体のうち、正常なものは青ラベル、一般的な伝染病での病死者は黄ラベル、極めて強力な感染力伝染病、つまりSARSによる死者の場合は赤ラベルを貼って区別しましたが、黄ラベルと赤ラベルの線引きガイドラインが曖昧だったので、この遺体は黄色にすべきか赤が適当かなど、困難を極めました。

ですから会社としてのライセンスはありませんが、葬儀の現場で働く従業員個人が社では経験と現状に鑑み、一歩踏み出し、従業員を上海に研修に送り出し、遺体整備師の免許を取らせています。一般の会社の従業員は納棺作業に当てるだけです。遺体整備師の免許を持つ我が社の従業員の場合は、遺体の防腐処理、整備、化粧などを致します。こういった技術は香港にありませんから、上海で専門の先生に学ぶわけです。



「半分孝子」の身」になつて

——とても有意義な仕事を続けられてい
ると思いますが、単刀直入に伺います。
仕事だといって割り切れることはできま
すか。

略 我々の商売は普通の商品やサービス
を売ることに違って、感情移入すること
があります。人はみんな家族の一員です
し、家族を持つし、死が何時訪れてもお
かしくないと判っていますから。この仕
事に関する心構えとして、祖父によく
「半分孝子」の身になれ」と言われまし
た。ビジネス、金儲けと割り切らず、亡
くなった方を自分の親と思つて扱えとい
うことでしょう。でもビジネスですか
ら、割り切るところは割り切れ、という
教訓だと思っています。

やはり心血を注がないと、仕事はうま
くできません。確かに多くの顧客の中
には無理な考えを持って、到底実現不可
能と思える要求をする方もいらつしやい
ますが、プロフェッショナルとして客の要
求に応えることが、仕事を円満にこなす

鍵です。こうして楽しく仕事できるんです。私たちは毎日違う人の相手をして、亡くなった方一人ひとり、ご遺族共々に異なる人生模様があり物語を知ることになります。つい先ほどまで元氣だった方が横たわって、返事をしなくなった光景を常日頃から目にしています。これが人生です。

遺族が心理的な問題を抱えているかもしれない。ですから、自分の立場ではどんなサポートができるかを考えています。この商売は儲かります。しかも確実に、効率的に儲かるビジネスです。しかし、私は仕事を円満に終えたいし、悲しい情況に置かれた遺族により良いサポートをしたいのです。

多くの人は私たち葬儀業者に対し良くないイメージを持っています。人の不幸で金儲けしていると言われてます。不吉だと思われ、避けられたこともありませう。しかし、ベストを尽くし、認められると、人はこの仕事のことを火事場泥棒ではなく、プロフェッショナルだと高く評価してくれます。我が社について事前

に調査してきたのかどうかは判りませんが、我が社はドイツからペンツの霊柩車を輸入し、女性遺体の処理、専門の女性チームも持っています。大学などで命の教育もよく行っていて、社会貢献を通じてこの仕事の意義を広く社会に知らせようと努めています。

現在、香港では「命についての教育」が行われるようになりました。そこで様々な世代に対して「死」について教育がなされています。このキリスト教の雑誌『Breakin'』にインタビューされたことがあります。これを差し上げます。社会的に立場の異なる様々な方が「死」に対する考え方を述べています。あるNGOに協力して、香港の葬式事情について紹介しました。それから、こちらが我が社のパンフレットです。

——最後の質問ですが、この職業について、どのようなお考えを持っていますか。恐憚らない考えをお聞かせ願えたら有難いのですが。

駱 以前は名刺を差し出しても、相手に怪訝に思われることがありましたが、現

在では皆さんの対応も違ってきました。相手が何を考えているのかも判るようになります。例えば、生前に死後のことを満足のいく形で処理しておこうとか……。幼い頃から葬儀業者としての家訓を教えられまして、例えば葬儀場では飛んんだり跳ねたりするとか、自分も半分くらいは死者に孝養を尽くすべきだとか。まあ心を穏やかにして葬儀を執り行えということでしょう。

葬儀には定まった形式というものはありません。我が社ではセットメニューのようなお仕着せの形式を提案することを望むものではありません。それと、望むものにはありません。それと、望むものにはそれぞれのお考えがありますから。一番大切なことは心を砕いて親身になって先方の願いに耳を傾けることです。とどのつまり葬儀とはすべからく生者は心の安らぎを求め、死者に対する哀悼の誠を捧げることですから。

(二〇一三年九月公壽中西殯儀にて)

世界殯儀館

(Universal Funerals Parlour Co., Ltd)

九龍の紅磡 (Hung Hom) は九龍はも

ちろん、香港島、新界を含む全香港を網の目のように結ぶ陸上交通の要であり、

同時に紅磡駅発の列車は広州を経て北京まで通じている。いわば「一国両制」を

結ぶヒトとモノの要衝ということになる。駱敏儀女史も言及しているが、この

街には多くの葬儀業者が店舗を構え、いわば九龍サイドの葬儀業界の中心地とい

うことになる。世界殯儀館は、この街の一角に威容を誇っている。総面積二万平

米で香港最大規模の世界殯儀館は、一九七五年一月に創業された。当時、香港

では殯儀館の数も設備も十全とは言えず、人口増加と必然的に迎えることとなる

死者の増加を見越し、新たな殯儀館建設が求められていた。その要望に応えるべく建設されたのが、最新施設を備えた世

界殯儀館だった。

インタビューに応じてくれたのは、同

殯儀館営業部の何湛マネージャーである。

* * *

葬儀の流れ

——まず伺いますが、この業界に入ったのは、いつ頃のことですか。

何 一九七五年で、当時は三〇代でしたから、かれこれ四〇年が少し欠けますね。

——何がきっかけで、この仕事を始めたのでしょうか。

何 この業界に知り合いが多かったことでしょうか。当時、この業界関係者に誘われまして、この業界の経営者は、互いが顔見知りですから。

——役職について、何か特別な呼び方はありますか。

何 特にありません。営業部における営業です。

——日常業務の内容について差支えない程度で教えていただけますか。

何 商談です。来店されるお客さんの相談に乗ってあげるわけです。

——客からの依頼があった場合、その後の仕事はどのような進められるのでしょうか。

何 まず葬儀の流れをご説明します。例えば死亡確認書、土葬あるいは火葬許可書などの書類の取得がありますから。当

方としてはスタッフを派遣してご遺族様のお供をして必要書類を取得し整えたうえで、ご遺体を引き取ります。そうすると次が土葬、火葬、つまり出棺ということになります。

——それでは、所謂「葬儀プランナー」が行っている内容と大凡は同じですね。

何 そういうことになります。当方としましては、ご遺族の考えに沿うことを第一と考えております。ご遺族様の希望があれば、それにお応えするという事です。これが一番大事です。あとは、お亡

くなりになった方の出身地の風習に沿って葬儀を執り行います。

——それが一番大事です。あとは、お亡くなりになった方の出身地の風習に沿って葬儀を執り行います。

——それが一番大事です。あとは、お亡くなりになった方の出身地の風習に沿って葬儀を執り行います。

——それが一番大事です。あとは、お亡くなりになった方の出身地の風習に沿って葬儀を執り行います。

——殯儀館にお勤めになって最初の部署が営業だったのですか。一貫して営業畑を歩いたということでしょうか。

何 はい、その通りです。

——一貫して営業畑を歩かれたということですが、時代によって仕事内容に変化はありましたか。

何 いいえ。じつは、この業界は基本的には極めて保守的ですので、業務内容、葬儀一般に関するサービス内容にさほどの変化はありません。

——いよいよ本題に入りますが、香港ならではの葬儀の特徴というものはありますか。

何 一般的な香港人の場合、取り立てて特徴というものはありません。あるとするなら、キリスト教、道教、仏教など宗教上の違いでしょうか。

——それぞれの宗教での葬儀の特色を挙げていただけませんか。

何 例えばキリスト教ですと、プロテスタントの出棺の際には安息礼拝があります。カトリックではミサが執り行われます。道教の場合、「担幡買水」(死者の魂を

送る祭事)という儀式が行われます。仏教では法師が読経する。これらが一般的ですね。

——ということは香港人の場合、宗教による部分が多いということですね。

何 はい。ところで最近では新しい宗教の信者も少なくありませんが……例えば日本系では創価学会、秀明会、日蓮正宗などです。現在、香港における最大の日本系宗教団体は、やはり創価学会ですね。

——創価学会の信者の葬儀では、何か特別な儀式など見られますか。

何 私の知る限りでは読経です。これが主で、他に際立った特徴はないと思います。

出身地による葬儀の違い

——ところで中国南部出身者の場合、葬儀で特別な風習はありますか。

何 故郷との結びつきを大切に思う場合は、先ほど申し上げました「担幡買水」という儀式はもちろんです。通夜では道士による「打齋」があります。これらの儀式は、どの葬儀でも行われます。

——中国での葬儀について伺いますが、香港との違いなどはありますか。

何 福建の方式は香港とはかなり違っていますね。とても迷信的です。福建と潮州では法事に必要な人数が極めて多いわけで、儀式の段取りも複雑ですね。海豊地方では、いわゆる「鶴佬齋」(広東省海豊陸豊一帯に見られる慰霊式)があります。

——そうですね。打齋の規模が違うということですね。

何 福建や潮州では桁違いに規模の大きい打齋が行われます。香港でも、大がかりな打齋を行うことは可能ですが、利用者が少ないですね。数十人も必要な場合もあります。お客様のご予算に応じます。私の経験ですと、数十万香港ドルをも掛けて行ったこともあります。

——蛋民や客家の場合はどうですか。

何 客家の場合は、出棺は一か月に六日ある「三娘煞」の日(旧暦で初三庚午日、初七辛未日、十三戊申日、十八己酉日、廿二丙午日、廿七丁未日の計六日)を避けます。客家は、その日を嫌うん

です。

——以上のほか、何か儀式的にお気づきの点がありますか。

何 香港では出棺の日に「買水」の儀式を行います。かつての天津では通夜に買水を行っていました。ですが現在では、そういう風習は廃れてしまい人々に忘れられ、そこで行わなくなっていました。香港では買水の後、使ったやかんを投げ捨てます。もう同じことをしなくてもいい、という意味が込められています。

——天津より北方は如何ですか。何かご存じなことはありますか。

何 それは上海なども含みますか。まあ遺体に着せる服にこだわりますね。寒い気候だから遺体を厚着にしてあの世への旅に送り出します。

——「寿衣」の材質に違いはありますか。

何 中国の北方では綿生地を使います。保温性に優れているからです。南の方は極く当たり前の寿衣です。かつては「綿襖」（綿入れ）を着せることもありましたが、現在ではあまり見られません。何

事も簡略化されてしまいましたから。

葬儀の二極化

——葬儀全般に簡略化が進んでいるというのですが、具体例を教えてくださいませんか。

何 まず遺体に寿衣を着せることがあまり見られなくなりました。その代りというんでしょうか、日常的に身に着けている衣服で済ませるようです。スーツもありますし、普段の服装という例すら見られます。若い層では亡くなった方のお気に入りの服装ですが、八〇、九〇代では依然として寿衣ですね。

——葬儀自体が簡略化されているのとこのでしたが、具体的には。

何 そうですね、やはり殯儀館を使わなくなったことでしょうか。殯儀館で葬儀をしなくなったんです。病院の遗体安置所から直接出棺します。現在では、この方式が一般的ですね。なにせ経済的ですから。そこで、この方式が主流になってきたんです。殯儀館での葬儀の場合、斎場の都合で順番待ちを我慢しなければなら

りませんし、何事によらず不都合なことが多いんです。病院から直接ですとスムーズに行きます。何より時間的にも経済的にも好ましいわけですから。経済的理由というわけではなく、ひっそりと事を済ませたいとか、関係者への配慮から病院からの出棺を選ぶこともあります。

——話は戻りますが、小さな香港ではありますが、それでも葬儀に地域差は見られますか。

何 香港は土地が少ないので、七割方が火葬です。公営墓地の使用期限の七年が過ぎたら、遺骨を掘り起こさねばなりません。そこで諸般の事情を考えれば、やはり火葬に落ち着くわけですね。とはいっても、掘り出した後の遺骨をどうするのか。それが問題なんです。遺骨安置所も不足しています。

香港政府が施設建設を計画するのですが、建設予定地周辺の住民の反対が強く、断念せざるをえないのが実情です。総論賛成で各論反対ですから、遺骨の安置施設に関しては、需要と供給のバランスが崩れているのです。私営の施設もあ

るにはあるのですが、金儲け第一で無許可で経営する業者やら、何十万ドルという高額を必要とするやらで、問題解決には程遠いのが現状です。

——儀式的な意味で香港の地域差を教えただけませんか。

何 それはご遺族の要求によります。何十万ドルも掛けた法事もありますし、百万ドルを使って葬儀場を飾りたてたり、どんなに派手な葬儀でも、ご要望に応じています。

例えば大型クルーザーを借り上げて、ご遺族や縁者の方々が外洋まで賑やかにクルージングし、遺灰を海に撒く場合もあります。なかには棺をヘリコプターで吊り上げ、そのまま飛行し、上空から墓穴に棺を下ろし埋葬する例も見られます。この世で最期の空の散歩といったところでしょうか。

——特別な風習や要望はありますか。

何 風習といえますと。

——例えば新界や離島などの農村や囲村における葬儀ですが。

何 囲村の場合、かつては殯儀館を使わ

ずに自分たちの囲村で葬儀場を建てて葬儀を行いました。村人の連帯意識が強かったということでしょうし、自分の村のことは自分たちで処理しよう。「自己人」(身内・仲間)は自分たちの手で野辺送りをしようという意識が強かったんですね。まあ葬儀における自力更生というんでしょうか。

ですが現在では、そういったこともあまり見られなくなりました。同じ囲村に住んでいるといっても、人と人の結びつきが希薄になっただけでなく、人口も減少したという事情もありますし、それに衛生面でも問題が少なくなっていますから。なにせ夏の暑さの盛りなど、遺体の腐敗も進みますし、参列者もたいへんですから。葬儀の自力更生は、何十年も昔の話です。現在では殯儀館、それに病院から直接ということ。

——他に特筆すべき風習がありますか。

何 福建を故郷とする人は七月には出棺しませんね。折から盂蘭節ですから。まあ私の体験からしても、福建に血のつながらる人は迷信を信じている場合が多いよ

うですね。

——それ以外では。

何 そうそう広東省佛山市の九江鎮出身者は買水の際、手にした包丁を水の容器の所に置きますが、これも現在ではあまり見られませんか。



鳥インフルエンザと葬儀の関係

——それには、どのような意味があるのでしょうか。

何 私の職業経験からしても、特に意味があるとは思えません。まあ、そういう風習が始まった時には意味があったのでしようし、そういった段取りに意味を持たせたんでしょうが、時代の流れのなかで、当初の意味合いが風化し、いつしか形だけとなり、やがて無意味だということと消え去る風習は、殊に葬儀儀式的場合、少なくないのではないのでしょうか。でも時折、なんだか判らないが遠い祖先から継承されてきたんだからと、訳は判らないが父祖伝来と称する段取りも見られます。

その昔、香港では出棺の際、オスの鶏

を使って「喝龍」(墓の適地を探すこと)という儀式が見られましたが、最近の鳥インフルエンザの影響で生きた鶏が買えなくなつたので、これもできなくなりましたね。

——「喝龍」は香港のどこ辺りで行われていたんですか。

何 方々で見られましたよ。土葬の場合、いざ埋葬という段になって、オスの鶏で「喝龍」と「旺塚」(墓地に子孫繁栄を託す祭事)という儀式を行っていました。現在では生きた鶏を使えませんので、「紙銭」で代用させています。福建系のお金持ちは「做七」(七日ごとに死後四九日まで行う供養)の法事を七回全部行います。彼らは迷信を信じていますから、一回の法事で燃やす供え物に、一万ドルほど使います。彼らの法事へのこだわりは、想像を超えていますね。

——四〇年近くのお仕事ですから、さぞや経験豊富なことと思いますが、差支えない範囲で構いませんから、特に印象に残つたことなどを教えていただけますか。

何 そうですねえ、予算が少ない方に

は、それなりのご奉仕を。孤児や未亡人に対しては、格安の料金で対応したこともありますし、殊に困窮している場合などは一切無料で葬らせていただいたこともあります。私どもの葬儀館には福利部という部署がありまして、お申し出があつた場合には事前審査をさせていただき、家計が逼迫している事実が判明したら、無料で処理しております。

——遺族から変わった要望が寄せられたことはありますか。

何 色々とありすぎて困るほどですが、何分にも亡くなつた方やご遺族のプライバシーに関することですので申し上げにくいのですが……葬儀場で遺体を前に喧嘩することも稀ではありません。裏には複雑な家庭事情があるのでしょう。でも、そういった場面に出くわしますと、思いますことは、やはり人というものは生きて来たようにしか死ねないということですね。ですから葬儀は亡くなつたその人の人生そのものを物語っていますよ。でも考えてみますと、不思議でもありませんでしょうが……。



醜い葬儀での遺産争い

——特に印象に残つたこと、深く感銘を受けたことなどは。

何 やはり第一は遺族の喧嘩騒ぎでしょう。感銘を受けたことといえば、やはり若くしてお亡くなりになつた場合であり、深い悲しみに包まれたご遺族には掛ける言葉ありません。若い奥さんが亡くなつた場合、年上の夫と子供の悲しみは一方ならぬものがあります。反対に年寄の場合、遺族には心の準備ができていますから。まあ若い人が、原因の如何にかかわらず突然命を絶たれば、悲しむのは当たり前のことですが。

——感動したことは。

何 それは数限りなくあります。亡くなつた方、ご遺族の方、それぞれ誠実に生きて来た方もおられれば、不誠実な人もいます。誠実な方の場合、葬儀全体の雰囲気も誠実に執り行われ、日常的に死や葬儀に接している我々も自ずから悲しくなります。ところが不誠実な場合は……。誠実か不誠実かは、ご遺族と接し

た第一印象で判ります。

——達成感というものを感じたことはありませんか。

何 特にありません。何から何までビジネスですから。ただ与えられた任務を淡々と処理するだけです。特に感情移入したこともありません。自分のビジネスを果たし、亡くなった方の意思に沿い、ご遺族の要望に応えるだけです。

☸ やはりあの世も力ネ次第

——最後になりますが、あなたの人生にとって、この仕事はどんな意味を持つているとお考えですか。

何 他の一般的なビジネスとは違って、ある種の公共事業と考えています。ですから最善を尽くすことを日々心掛けてきました。良心的な仕事に努め、他人様を騙すことなく。これが私の指針です。悲しみに暮れている方々、金銭的余裕のない方の心の隙を衝き、言葉巧みに不必要な出費を強いることもしません。もつとも、お金持ちは別ですから。

遺族の方々は、やはり気が動転してい

て混乱に陥っているわけですから、「こうしたほうがお亡くなりになった方のためです」と言葉を掛ければ、どなたも素直に受け入れてくれます。だが、他の人は知りませんが、私にはそんなことはできません。業者である自分も満足し、ご遺族の方も心安らかにご葬儀を終えることができることこそが、最も大切なことだと思います。それにしても経済力のない方は、本当に不憫です。そういう方に無駄な費用を使わせてはダメです。そんな方でも、こちらが誘えば高額であっても金銭を工面します。だが、そんなことをやってはいけません。

ビジネスではありませんが、やはり一般のビジネスとは次元を異にする公共事業、慈善事業というのが、この仕事に対する私の基本的な考えです。それにしても、四十年近い経験から思うのは、やはり、葬式のスタイルも社会の変化と共に様変わりしますし、人々の葬送儀式に対する考えも違ってきたということです。

これから、この仕事も様々に変化せざるをえないでしょうが、公共事業、慈善

事業という思いだけは、次代の業者にも持ち続けてもらいたいものです。それにしても、つくづく思うことは、この世だけではなく、あの世も、いや、この世以上にあの世は力ネ次第である点だけは変わりないようですね。

(二〇一三年九月世界殯儀館にて)

(テープ起こし) 彭浩斌、

構成・整理・文責 樋泉克夫

〔付記〕 今回のインタビューに際し多くの助言と協力を給わった香港第一日語暨文化学校の李澤森校長に深い感謝の意を表しておきたい。

参考文献 (出版年次順)

〈香港〉

洗玉儀・劉潤和『益善行道——東華三院135周年紀念專題文集』三聯書店(香港)有限公司、二〇〇六年

陳炳麟・岑智榮・陳賢匡主編『生前身後——香港殯儀三四事』聖雅各福群會企業拓展、二〇〇七年

何佩然編著『「東華三院檔案資料彙編系列之一」源與流——東華醫院的創立與演進』三聯書店(香港)有限公司、二〇〇九年

年

何佩然編著『東華三院檔案資料彙編系列

之二』施與受——從濟急到定期服務』三

聯書店(香港)有限公司,二〇〇九年

葉漢明編著『東華三院檔案資料彙編系列

之二』東華義莊與寰球慈善網絡——檔案

文獻資料的印證與啓示』三聯書店(香港)

有限公司,二〇〇九年

丁新豹『善與人同——與香港同步成長東華

三院(1870-1997)』三聯書店(香港)有限

公司,二〇一〇年

Breakazine:創作小組『Breakazine: 013 死

亡·獨白』突破出版社,二〇一一年

梁家強『祭之以禮』梁津煥記(禮儀顧問)有

限公司,二〇一一年

巫美梅·劉銳宏『拜祀衣紙札作與香港民間

風俗』中華文教交流服務中心,二〇一一年

袁伍鳳『香港殯葬』勵志生命教育協會有限

公司,二〇一三年

袁伍鳳『殯葬掠影』勵志生命教育協會有限

公司,二〇一三年

郭美玲·徐巧詩責任編輯『《明周》城市系

列·荷李活道』明報雜誌有限公司,二〇

一三年

陳曉蕾·周榕榕『死在香港 見棺材』三聯

書店(香港)有限公司,二〇一三年

陳曉蕾·周榕榕『死在香港 流眼淚』三聯

書店(香港)有限公司,二〇一三年

〈中國〉

中國風俗辭典編輯委員會編『中國風俗辭典』

上海辭書出版社,一九九〇年

鮑延毅編著『死雅』中國百科全書出版社,

二〇〇七年

潘倩菲主編『實用中國風俗辭典』上海辭書

出版社,二〇一三年